

▼最優秀賞受賞作品（詩）

看護師さんに感謝

深谷孝夫

梅の花便りを聞く季節  
年寄りには聞き慣れない  
得体の知れない病魔に突然襲われ  
寝床から立ち上がれず  
記憶を喪失した状態で  
救急車で搬送される

慌ただししい足音や寝台車の振動で自分が  
今どこに向かっているか微かに自覚する  
病棟で待機している看護師さん  
わたしの名前と病院名を確認し  
からだをバンドで優しく固定する  
自由を奪う申し訳なさからか  
ごめんねの一言

なにごともしのちが第一 安全が第一  
この日を境にわたしは赤ちゃんになった  
紙パンツを履き排泄物の処理など  
照れくさい 恥ずかしいは邪魔な感情  
男の自尊心にこだわっていると  
治る病気も治らない

五十数年 病院の世話にならなかつた  
男の誇りをすっきりと捨て去り  
看護師さんの思いのままにいのちを預ける  
度々の採血にまた違う病魔に襲われる  
恐怖心が心臓の動悸を活発にするが  
主治医の先生に結果は良好といわれ夜は熟睡  
暖冬のせいか桜の花便りが聞かれる

二月二十四日の日 早朝の夢が破れる  
ロシアがウクライナへ侵攻したのだ  
ああ またいつもの手を使うのか  
花火のように打ち上げるミサイルは  
安寧に暮らす国民の生活を無差別に  
破壊する 国際違反行為  
B S 海外ニュースに釘付けになった  
わたしは目撃者となり証言したい  
そして人間のDNAに潜む  
殺戮の本能を呪う  
仕掛けた国を呪う

人間の悪しき欲望を正当化する  
野望に正義はないのではと  
鬱々としていたところへ  
ベッドのカーテンが引かれ  
先生の回診がはじまる

恐怖の採血の結果  
退院の日程を考えてもいいと言われ  
四月の桜の花見に間に合つたいのち  
大勢の看護師さん達の昼夜を問わない  
丁寧なお世話と笑顔に感謝です  
元氣を取り戻したからだを  
険悪な世情で押し潰そうと  
強弱を繰り返しながらゆさぶるが  
負けてはいけないのだと  
キンモクセイの香りが背中を押し  
よろける足に手を差し伸べ  
一步一步と健康寿命を延ばす